

クラッシー CLASSY

発行 筑後八女地区 西日本新聞エリアセンター
 企画 イースタンコミュニケーションズ
 印刷 株式会社 東兄弟 TEL 0943-24-2111
 八女市祈禱院563 〒834-0025
 HP:www.dcity-yame.com
 E-mail higashikeyitei@tea.ocn.ne.jp

ワンランク上の暮らしを考える人の情報紙

デジタルシティやめ 検索



11 NOV

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT		
1 10月5日 友引 なんでも人権相談所 (八女市社会福祉会館)	2 6日 先負	3 7日 仏滅 文化の日	4 8日 大安 振替休日	5 三りんぼう 赤口 12月1日(日)セラピーウォーク 森の案内人とグリーンピア八女 全てのセラピーロードを歩きます。 約7.5km(弁当・温泉券込み) 締切 11月19日(火) 下記へお申し込み下さい。 八女市役所 黒木支所 ☎42-1115 fax42-0172	6 10日 先勝 川崎病院「ミニ健康教室」 日時 11月30日(土) 14:00~ 場所 川崎病院5階第1会議室 演題 膝の痛み~変形性膝関節症~ 変形性膝関節症の予防体操 講師 松山 直也(整形外科専門医) 江崎 広幸(理学療法士) 参加費 無料(要予約) 定員 40名 お申し込みは 23-3005 山口	7 11日 友引	8 12日 先負	9 13日 仏滅 緋の里巡り in 筑後 ~10日(筑後市北西部一帯)
10 三りんぼう 大安 八女軽トラ市 9:00~12:00 (八女観光物産館駐車場) 八女筑後看護学校 看護科入学試験(一次)	11 15日 赤口 新聞休刊日	12 16日 先勝	13 17日 友引 なんでも人権相談所 (筑後市中央公民館)	14 18日 先負	15 19日 仏滅 定例法律相談会(要予約) 10:00~12:00 (八女商工会議所)☎22-5161	16 20日 大安 人生史サークル黄櫨の会 (八女福祉会館)		
17 21日 赤口 福岡駅伝大会 7:00~(筑後広域公園)	18 22日 先勝 べんがらの日(べんがら村) 大浴場お一人様300円	19 23日 友引	20 24日 先負	21 25日 仏滅 無料弁護士法律相談 13:30~(八女民主商工会) 要予約☎24-2727	22 三りんぼう 大安 勤労感謝の日 本 de 恋♥活 17:30~(筑後市立図書館)	23 27日 赤口		
24 28日 先勝 八女軽トラ市 9:00~12:00 (八女観光物産館駐車場)	25 29日 友引	26 30日 先負 お風呂の日(特典あります) (グリーンピア八女)(公園の宿) (温泉館きらら)(べんがら村)	27 11月1日 大安	28 2日 赤口	29 3日 先勝	30 4日 友引 サンコアまつり (サンコア)		

クラッシー文芸

■筑後俳句会
 畑仕事憩へば染みる秋の風
 秋うらら旅の約束すぐ決まる
 重陽や輪台つけて開花待つ
 蝸や一日の仕事無事に終ゆ
 白鷺のモデル歩きや秋うらら
 ダヴィンチの終の古城や星月夜
 橡の実や今は懐かし黒ダイヤ
 押戸石の注連の湿りや山は秋

■立花町立花俳句会
 聴覚に戦ぐものなく法師蟬
 浸水値実家に残る秋出水
 秋澄むや袷姿のはんや舞
 遠の秋戦死公報鉛空
 駅弁と弾む会話の夏の旅
 読みかけてまた読み返す秋灯
 賑やかな里静まれば白露かな

■黒木町くすの実句会
 曝書にも隣り同士の子規と虚子
 ふたつ聞きひとつ忘れて敬老会
 死ぬことも承知おまけの金魚かな

流灯やその先のあり黄泉の坂
 夫と往く影も語りぬ良夜かな
 菊の花活けて終はりぬ盆用意
 すばしこき秋の蚊を打ち空を切る

■睦会
 天空にロマン広がる流れ星
 入念にカタログめくる夜長かな
 乳形のふくよかにして藍浴衣
 秋早手柄杓の庭息働けり
 お互に深くは触れず秋の雲
 秋来ぬと頬撫つ風に思ひひり
 控え目が母の相なり杜鵑草
 うすれゆく母の記憶や秋の暮

■紫苑句会
 句碑までは胸突き坂葛の花
 試歩の杖おぼつかなしや残る虫
 長月の乙女座生まれ傘寿翁
 ハーブ園蜻蛉の空の広がりし
 彼岸花九十九折りして柵田かな

下川チトエ
 白谷きよみ
 平昌恵
 辻八重子
 永田富子
 植生洋美
 水本辰次
 水本艶子
 吉泉守峰
 原宣子
 西島志乃美
 三宅清一郎
 深町和子
 中村テルコ
 武田行夫
 吉泉守峰
 吉泉守峰
 松尾アサ子
 寺田睦子
 栗山豊秋
 松尾満留美
 青木早弓
 野崎万智子
 東野蓉子
 城戸和子
 大田眞紗子
 松尾貞義
 穴見ミキエ
 大坪榮子
 伊藤幸子
 松尾美喜

今月の山柳



紅葉に心も染めて身を癒す

文部省唱歌「紅葉」。秋の夕日に照る山紅葉と、もえたつ紅葉の空に映える美しさに癒されま

今月の色



栗の梅

紅みのある栗色。江戸前期の「栗色の梅染」が略されたものといわれます

視覚デザイン研究所「和の色のものがたり」より

霜月に入りますと、四周の雑木山は薄紅の彩りを添えてきます。周りの松山ではなば山(茸山)あがりが出ます。なば山は松茸山のことで、「なば山あがり」と言えば松茸狩りの意です。現在庶民には高根の花になっていますが明治31年の旧川崎村の年産約432kg、同41年の旧忠見村での産額約1392kgと記録にあります。この丘陵地で2屯近くの松茸生産とは、想像もつきかねる特産物だったのです。「八女の方言歳時記内山一兄・郷田敏男共著より



筑後市徳久 田中 秀幸



芸文館にて、月二回、水彩画を学んでいます。絵を描くのは学生以来です。学校で学んだものとは違い、水をたっぷりと使って滲みやボカシを作りながら描く方法に戸惑いながらも楽しく描いています。

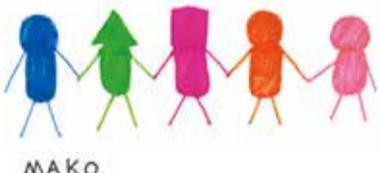
教師道

19

森下 計二

学級には、いつも落ち着いてしっかり物事をする子ばかりではありません。毎日周りが嫌がるような手付けられない子もいることがあります。大声でわめいたり、机が上がって飛び回ったりもします。そんな子はどうしたらいいか教師はいつも悩まされます。カッとして体罰をしようとする危険もあります。そんな時、私はこうすると決めていました。勿論、保護者に意図を伝えました。放課後に子どもを残して、校庭や体育館で、本気で勝負するのです。相撲でも、バスケのシュートでも、跳び箱でも、ドッジボールでもきちんとルールに従った一対一

の勝負です。それも一回だけでなく何回も何回も繰り返す。教師と子どもどちらかがへとへとにへばってしまうまで続けるという勝負です。言葉じゃどうにも通じない時はそうするのです。その日に決着がつかないと、また別の日に、それでもダメな時はさらに別の日に。きっと、きっとこの子はわかってくれると信じて全力でぶつかるのです。共に負けまいと汗を流し闘う。勝ち負けの問題じゃないうってことが伝わるまで。私のその解決法の成功率は、歴代、ほぼ百パーセントでした。



こんにちは。八女警察署です。63

指名手配被疑者の検挙に御協力を！

全国の警察から指名手配されている者は、凶悪事件などで特に警察庁が指定している重要指名手配被疑者を始めとして、約600人に上っています。

これらの被疑者は、殺人、強盗等の凶悪事件のほか、暴行、傷害、窃盗、詐欺、横領等の事件に関して指名手配されており、再び犯行するおそれがあります。

警察では、特に重大な犯罪の被疑者を選定した上で、11月中に全国警察の総力を挙げて追跡捜査を行うこととし、これら被疑者の早期検挙に取り組んでいるところです。

この指名手配被疑者の発見に向けた捜査活動には、県民皆さんの御協力が不可欠です。

指名手配被疑者の画像は、警察庁や福岡県警ホームページでも公開されていますし、警察署等にもポスター掲示がされています。

指名手配被疑者によく似た人を見つけたといった情報など、わずかなことでも結構ですので、警察に通報していただくをお願いします。



食欲の秋の到来!! ~収穫の秋を道の駅で楽しもう~ 11月23日(土)・24日(日) 秋の大収穫祭 11月30日(土)・12月1日(日) 新上五島町物産展 イベント盛りだくさんで皆様をお待ちしております。ぜひ遊びに来て下さい!!!! 道の駅たちばな



健康万歳 ③ 健康の秘訣

私は月に1回医師会の産業保健センターの仕事でコーディネーター同伴の上健診の事後相談と指導に2社ほどの巡回に行く。その際に高齢で元気そうに見えるのか「先生の健康の秘訣は何ですか」とよく聞かれる。秘訣があればこちらが聴きたいくらいだが、「それは健診を受けないことです」と私流に答えている。確かに結果票を見るとそう思いたくなるほどに有所見率が高い。気の弱い人ならそれだけで十分病気を造る。

私は間もなく87歳になる。80歳を越える頃から健診を受けなくなったが「あるがままに生きた方が良い」と手前勝手の考えがその理由だ。医食同源で食生活を守り、日々の生活リズムを崩さない限り急激な「老」はない。ガンも人間の弱り目に活発になる様だ。齢を加えるごとに検査数値が上がるのも当たり前で驚くことも無い。たとえガンが見付かっても手を加えるには遅すぎるし場合によっては生活の質まで悪くする。

話題を返すが「今日行く(教育)ところがある」のは大切な事で、兎角高齢者は外に出たがらず閉じこもる傾向にある。

最近ではサービスなどで楽しく1日を過ごしている方たちが多くなってきたが結構な老後の生き方だと思っている。人に接するとなるとそれなりにお洒落も必要で、無くなり掛けた色気も生まれてくる。頭の体操にもなり健康を保つ秘訣の1つだ。更に適度な運動で生活リズムを守り快い疲れも出て食欲や睡眠にも良い影響がある。

私は週に3日老人ホームや福祉施設で囑託として高齢者たちに接している。若い職員の方からエネルギーも貰えるしこれが健康の秘訣にもなっている。

今夏誘われて3年ぶりに海外旅行を試みた。若い頃から情熱を燃やしたイタリア旅行にこの齢でといささか不安もあったがどうにか私の実験的挑戦が成功した。ツアーの中では最高齢だったが来年もまたと言う意欲も湧いた。目的を持つことも健康には欠かせない秘策だ。

今後必ず来る高齢社会に対応する為には「自分なりの考え方改革」も必要になってくる。 林 栄一(医師・立花町)

子育て、仕事、親の介護と、忙しい毎日を送っていた事が嘘のようです。そんな中、家でゆっくりしていた時に、絵手紙教室の事を知りすぐに申込みました。月に二回の教室で、花、野菜、果物、その他等々なるものを描いています。私のへたな絵を、先生は良く描けた所を見つけてほめてくださいます。その言葉でうれしくなって次もがんばろうと思います。又、いっしょに習っている仲間の皆さんから、いろいろと分からない事を優しく教えてもらっています。楽しい絵手紙教室をこれからも続けていきたいです。



八女市吉田 原野 厚子

健康よもやま話 ④



姫野病院：松浦 緑郎 (健康管理士一般指導員)

●慢性硬膜下血腫

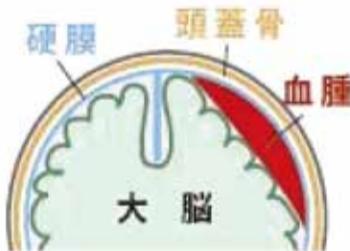
高齢者に手足の運動麻痺や認知症の症状が起こると、第一に脳卒中を疑って色々検査をしますが、ときに「慢性硬膜下血腫」といって全く異なった病気があります。



「慢性硬膜下血腫」は頭蓋骨のすぐ内側にある脳硬膜の下にジワジワと出血し、脳が血腫で圧迫されるために起こるものです。

高齢者に多く、手足の運動麻痺、頭痛、無関心、意識レベルの低下、精神症状、異常言動、けいれんなどといった症状がいつとはなしに現れ、日によって、その程度が変動することがあります。

また、視野に霧がかかったように見える(霧視)、目の焦点が合わない感じがするなど、目の症状を訴えることもあります。



【脳と硬膜の間に徐々に血液がたまり脳を圧迫】

詳しく問診をすると、半数以上は1~2カ月くらい前にベッドから転落して頭部を打撲した、あるいはふらついて壁やタンスに頭を「ゴツン」と打ったけれど、たいしたことはなく忘れていた、といった程度の頭部外傷の既往があります。

勿論、頭を打てば必ず「慢性硬膜下血腫」になるかとい

うと、そうではなく、実際には年間10万人に1人か2人がかかる病気です。ただし、高齢者になると発症する可能性は上昇してきて、10万人に7人程度と言われています。

「慢性硬膜下血腫」はCT検査で容易に診断ができます。血腫が小さい場合は、ほとんど症状も出ることなく自然治癒しますが、血腫が大きく、神経症状が強い場合は手術が行われます。

局所麻酔で小さな穴を開けて、たまった血液を洗い流すだけの手術が主流です。術後、数時間で驚くほど改善し、後遺症もほとんどありません。治療可能な認知症の代表的な病気です。

坂本繁二郎先生の『窓の馬』模写画です

八女学院中学校1年 山口 咲輝さん



11月3日の「帰居祭」のために、今年も画塾にポスターに使う坂本繁二郎先生の絵の模写画作成の依頼があり、6月から8月までかかってこの作品ができました。

坂本先生58歳のとき(昭和15年)の油彩画「窓の馬」(F6号)のクレパスでの模写画です。

幼児期使用した画材で描く楽しさを作者山口咲輝さんは充分味わったと思います。重ね塗りした色をナイフで削り、さらに色を重ねた結果、想定外の重厚な作品が仕上がりました。坂本先生は、鉛筆、墨、水彩、パス等の画材にこだわることなく「絵」を探求されました。その精神を山口さんは充分理解してくれたと思います。

杉山絵の教室 杉山亜土



吹き

叔母の晴れの日

誰の人生にも神の恩寵(おんちゆう)と思えるような一日がある。雲一つない秋晴れの日、叔母の一人息子が結婚した。新朗の母親として式に臨む叔母は、静かに笑みを湛えていて息を呑むほど美しかった。人生最良の日を迎えられた叔母を見つめる私の目には、涙が溢れた。

八人兄弟の長男として私の父は生を受けた。叔母は父の下から二番目の妹に当たる。六人の叔母の中でも一際優しく、私をかわいがってくれた。高校卒業後、市役所に務め、結婚を機に専業主婦の道へ。夫を支え娘を産み、絵に描いたような幸せな家庭を築き、私は叔母に憧れた。夏休みに泊まった叔母の家で、私が初潮を迎えた時も赤飯を炊いて祝ってくれた。私にとっては微かな痛みを伴う温かな叔母との思い出である。叔母の人生の歯車は、年を経て息子を産んだ後から狂い始める。鬱病から統合失調症を発症し長い闘病生活が続く。その間に離婚、眼や肩、心臓の病を克服し現在に至る。還暦を過ぎて介護福祉士の資格を取り、近年まで施設で働いていた。人の役に立つことを最大の喜びとして、叔母は立ち直っていった。息子と腕を組み花束を抱く叔母が余りに眩しくて、今日まで叔母の命があった事の奇蹟を、私は天に感謝した。そんな叔母の晴れの日、心から拍手と喝采を贈りたい。

蓉子

